

科目名	形態機能学Ⅳ Morphophysiology IV		担当教員 (研究室番号)	山根 基 (非常勤) 灘波 浩子 (203) 川島 珠実 (202) 田端 真 (308) 市川 陽子 (105)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	1年次 後期	科目区分	専門支持科目		選択区分	必修	単位数 (時間)	2(30)	授業形態	講義	科目等 履修生	可
科目目的	解剖学と生理学の知識や考え方に触れ、看護の基礎となる人間の形態と機能について学ぶ。形態機能学Ⅰ～Ⅲとあわせ、形態機能学Ⅳでは、呼吸器系、消化器系、排泄、生殖について学ぶ。											
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連するDP	G 看護学に対する研究的視点を持ち、主体的に学ぶ姿勢を有している。(関心・意欲)										
到達目標	1. 呼吸・消化・排泄・生殖に関わる臓器・器官の構造、機能や適応性についての基本的用語や考え方を理解することができる。 2. 基本的な生体調節のメカニズムについてその概要を説明することができる。 3. グループワークや演習においては、他の学生とも協調しながら主体的に参画することができる。											
成績評価方法 (基準)	定期試験の得点(80%) + 「看護への応用」の課題(レポートやミニテスト、発表など)の得点(20%)											
再試験の有無と 基準等	定期試験と同じ出題範囲で筆記試験を実施しその結果で評価する(100%)。											
教科書	コスタンゾ「明解生理学」、エルゼビアジャパン											
参考書等	朝山正己・彼末一之・三木健寿編著 「イラスト運動生理学」東京教学社											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	授業ではパワーポイントを使いますが、全部をノートに写し取ることにこだわらず、講義内容をしっかり見聞きしてイメージを掴むことに努めて下さい。その上で、時間外の学習や他科目の内容との比較などで、得た知識を使える知恵にかえるよう努めることが大切です。また、看護専門科目での学びに備えて、臨床例を用いて身体の形態や機能について考える演習やフィジカルアセスメントにつながるよう、身体の形態や機能を評価するための簡単な測定を取り入れます。これらに積極的にいかかわって、人体の形態、構造、機能やその成り立ちなどのイメージを掴んでください。自分で自分を育てていくことが大学での学びです。											
備考	自分の持っている知識や考え方を駆使して考え、議論することは学びの重要な鍵です。事前に内容の理解に努め、看護への応用などの演習では積極的に課題と向き合ひましょう。聞く側は話し手が間違っていると思っても、話していること自体が素晴らしいとその努力を讃えましょう。											
回	学習項目			学習内容				主担当 教員	授業 方法			
1回	呼吸器系①呼吸器の構造と機能			呼吸器系の構造(気管、気管支、肺など)、体表からの確認、呼吸音、胎生期と出生後の肺の成熟気道粘膜の働き、喀痰などについて学ぶ。				山根	講義			
2回	呼吸器系②呼吸運動			呼吸筋の運動による換気メカニズム、肺コンプライアンス、肺気量分画について学ぶ。				山根	講義			
3回	呼吸器系③ガス交換、酸素と二酸化炭素の運搬			ガス交換、換気と血流の関係、シャント、肺拡散能、ヘモグロビン、ヘモグロビンの酸素結合の特性と酸素の輸送、低酸素への適応、胎児のヘモグロビン、血液による二酸化炭素輸送などについて学ぶ。				山根	講義			
4回	呼吸器系④呼吸の調節			化学受容体の役割と呼吸の神経性調節、ネガティブフィードバック調節、発声、咳嗽、嘔、吃逆などについて学ぶ。				山根	講義			
5回	呼吸器系⑤看護への応用 ～息をするとは～			呼吸数、換気量、死腔、酸素分圧、パルスオキシメトリなどの呼吸機能の測定(評価)を通して、生活行動と呼吸機能の関係を理解する。				田端	演習			
6回	呼吸器系⑥看護への応用			生活行動や事例を通して、看護の視点で呼吸器系を捉え、看護へのつながりを理解する。				田端	演習			
7回	消化器系①消化器の構造と機能			口、咽頭、食道の構造と機能、咀嚼、唾液分泌、嚥下、体表からの位置の確認などについて学ぶ。				山根	講義			
8回	消化器系②消化と吸収(胃、小腸、大腸)			胃、小腸、大腸、腹膜の構造と機能、消化器の運動と消化液の分泌、栄養素の吸収、体表からの位置の確認などについて学ぶ。				山根	講義			
9回	消化器系③消化と吸収(肝臓、胆嚢、脾臓)			肝臓、胆嚢、脾臓の構造と機能、門脈、物質の代謝、胆汁、体表からの位置の確認などについて学ぶ。				山根	講義			
10回	消化器系④看護への応用～食べるとは～			生活行動や事例(嚥下困難など)を通して、看護の視点で消化器系を捉え、看護へのつながりを理解する。				川島	演習			
11回	排泄①排便			腸～肛門の構造と機能、便意の発生と排便のメカニズム、下痢と便秘などについて学ぶ。				山根	講義			

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
12回	排泄②排尿	膀胱・尿道の構造、膀胱内圧と尿意の発生、自律神経支配と膀胱の働き、外尿道括約筋の随意収縮とその獲得、尿検査などについて学ぶ。	山根	講義
13回	排泄③看護への応用～排泄するとは～	生活行動や事例（便秘や下痢等）を通して、看護の視点で排泄を捉え、看護へのつながりを理解する。	灘波	演習
14回	生殖①生殖器の構造と機能	遺伝による男と女、性と生殖に関する解剖（内性器・外性器、骨盤等）、生殖を支えるホルモン（月経周期、卵巣機能等）について学ぶ。	市川	講義
15回	生殖②妊娠・出産	妊娠成立の機序、胎児の発育、胎盤機能、胎児循環について学ぶ。	市川	講義

学 習 課 題

- 1～4回目課題（事後）：学習した内容を復習し、看護への応用で主体的に考えが述べられるように理解を進めておく。
- 5・6回目課題（事後）：看護への応用で学んだ内容や課題をレポートに整理し、提出する。
- 7～9回目課題（事後）：学習した内容を復習し、看護への応用で主体的に考えが述べられるように理解を進めておく。
- 10回目課題（事後）：看護への応用で学んだ内容や課題をレポートに整理する。
- 11・12回目課題（事後）：学習した内容を復習し、看護への応用で主体的に考えが述べられるように理解を進めておく。
- 13回目課題（事後）：看護への応用で学んだ内容や課題をレポートに整理する。
- 14、15回目課題（事後）：学習した内容を復習し、定期試験に備え主体的に考えが述べられるように理解を進めておく。

実務経験を活かした教育の取組

・「看護への応用」を担当する教員は、看護職として実務経験を持ち、看護の実践及び教育・研究活動を行っている。その経験を活かして本授業の演習を担うことで、初年次の学生の学ぶ雰囲気醸成し、看護への関心を深めるとともに、看護専門科目へのスムーズな導入を図る。